

雀がいなくなった

稲宮 健一

学生の頃、汽車で美りの季節に旅行すると、一面の黄金色の田圃が車窓から見えた。コトコトと響く車輪の音や、時々鳴らす汽笛で、田圃から一斉に雀が飛び出す風景を覚えている。農家にとって、収穫時の雀は外敵で、案山子を立てたり、網を張ったり、稲穂を守った。今、我が家の近くの舞岡公園の中にある市民農園の田圃は刈り取られ、そこに創作案山子が立っているが、雀はいない。漫画に出て来るような面構えや、宇宙人や、カップのまがいものや、三十本ほどの案山子がコンクール用に立てられている。子供達は本来の案山子の役割を知っているのだろうか。田圃に雀は殆どいない。

子供の頃、目覚めは雀のちゅんちゅんであり、雀は身近な小鳥だった。しかし、最近カラスに取って代わった。カラスが群れを成し、仲間の合唱は至るところで公害と思われるので、生ごみの管理を厳しくし、最近はやく下火になった。でも公園内ではまだまだ、あの鳴き声は聞える。そして、多分、カラスは林や、家々の間の木々にある雀などの小鳥の巣を狙い、卵やヒナを捕食しているのではないか。

カラスをこれほどにはびこらせたのは、戦後の食糧事情がやがてよくなり餌に適した生ごみがだらしなく捨てられた結果だろう。最近ようやく容易にカラスに食い散らされないようにしたしつかりしたゴミ箱に管理されるようになった。ここは海岸から離れたところにある公園だが、湘南海岸へ行き、浜辺の屋外でお弁当を開くと、鳶に注意とのお触れが目に入る。本当に揚げや、フライものなど油っぽいものを上空から狙って一気に急降下し、さらっていくようだ。

身近な鳥との関係だが、森が近くにある畑や、郊外の住宅地で猪や、猿が現れて騒がせている。これも、飽食の後始末の悪さや、森林の管理が疎かになって人との住み分けが破れることから起きるようだ。後始末は誰でも敬遠しがちだが、回りまわって生活環境に及んでくるので、しっかりと管理してもらいたい。